

横浜市感染症発生動向調査報告(令和8年3月)

委員会開催日(2026年3月26日)時点のデータになります。

《今月のトピックス》

- 麻しんは国内感染例の報告が続いています。
- 梅毒は20～40歳代を中心に幅広い年齢層で患者が多く報告されています。引き続き注意が必要です。

◇ 全数把握の対象 <2026年2月23日～2026年3月22日に報告された全数把握疾患>

腸管出血性大腸菌感染症	3件	後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)	3件
E型肝炎	3件	侵襲性肺炎球菌感染症	6件
A型肝炎	1件	梅毒	25件
マラリア	1件	播種性クリプトコックス症	1件
レジオネラ症	1件	百日咳	14件
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	3件	麻しん	4件
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	4件		

1. **腸管出血性大腸菌感染症**:40歳代～60歳代で、O血清群はO103が1件、O不明が2件です。すべて無症状病原体保有者で、いずれも感染経路等不明です。
2. **E型肝炎**:50歳代～60歳代で、無症状病原体保有者が1件です。いずれも感染経路等不明です。
3. **A型肝炎**:50歳代(ワクチン接種歴無)で、経口感染と推定されています。
4. **マラリア**:20歳代で、三日熱マラリアです。蚊からの感染と推定されています。
5. **レジオネラ症**:70歳代で、病型は肺炎型です。感染経路等は不明です。
6. **カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症**:60歳代～90歳代で、感染経路は手術部位関連感染およびその他と推定される報告が1件、院内感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が1件です。
7. **劇症型溶血性レンサ球菌感染症**:70歳代～90歳代で、血清型はA群が1件、B群が1件、G群が2件です。飛沫・飛沫核感染と推定される報告が1件、創傷感染と推定される報告が3件です。
8. **後天性免疫不全症候群(HIV感染症を含む)**:20歳代～30歳代で、病型はAIDSが1件、無症状病原体保有者が2件です。感染経路はいずれも性的接触(同性間2件、詳細不明1件)と推定されています。
9. **侵襲性肺炎球菌感染症**:40歳代～80歳代(ワクチン接種歴無3件、不明3件)で、飛沫・飛沫核感染と推定されるのが2件、感染経路等不明の報告が4件です。
10. **梅毒**:20歳代～60歳代で、早期顕症梅毒Ⅰ期5件、早期顕症梅毒Ⅱ期12件、晩期顕症梅毒1件、無症状病原体保有者が7件です。性的接触による感染と推定される報告が21件(異性間13件、同性間3件、詳細不明5件)、感染経路等不明の報告が4件です。
11. **播種性クリプトコックス症**:70歳代で、感染経路は免疫不全と推定されています。
12. **百日咳**:10歳未満～80歳代(ワクチン接種歴4回1件、回数不明1件、不明12件)で、家族内感染と推定される報告が1件、感染経路等不明の報告が13件です。
13. **麻しん**:2件とも20歳代～50歳代(ワクチン接種歴1回2件、無1件、不明1件)で、飛沫・飛沫核感染と推定される報告が3件、感染経路等不明の報告が1件です。

報告週対応表	
2026年第 9週	2月23日～3月 1日
第10週	3月 2日～3月 8日
第11週	3月 9日～3月15日
第12週	3月16日～3月22日

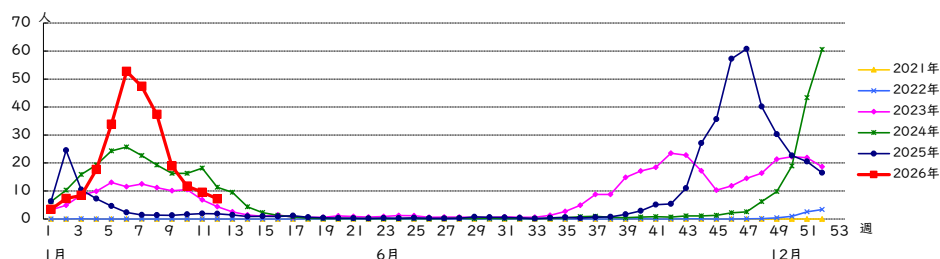
◇ 定点把握の対象

※ 2025年第14週(3月31日～4月6日)以降、小児科定点は94→51、
内科定点は59→39 医療機関に変更されました。

1 インフルエンザ

2025年第43週(10月20日～10月26

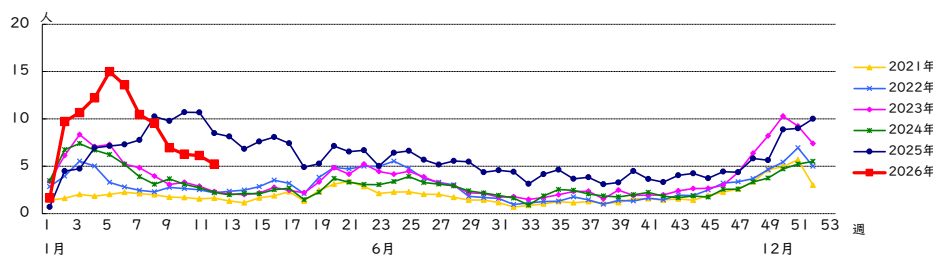
日)に流行注意報(10.00)、第45週
(11月3日～11月9日)に流行警報
(30.00)の発令基準を超えました。そ
の後増加が続き、第47週(11月17日
～11月23日)に60.78で1回目のピ
ークを迎えました。その後は減少



傾向でしたが、年明け以降再び増加に転じ、第4週に流行注意報、第5週に流行警報の基準を再び超えま
した。第6週に52.73で2回目のピークを迎え、以降減少しています。第12週は7.18です。

2 感染性胃腸炎

2025年第46週(11月10日～11月
16日)以降増加傾向が続き、2026
年第5週に14.98でピークを迎え
ました。以降は減少傾向で、第12
週は5.22です。



3 性感染症(2026年2月)

性器クラミジア感染症	男性:39件	女性:23件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:17件	女性:10件
尖圭コンジローマ	男性:12件	女性:2件	淋菌感染症	男性:15件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第9週	第10週	第11週	第12週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.25	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	0.00	0.50	0.00	0.00
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.25	0.00	0.00

5 基幹定点月報(2026年2月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	12件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	0件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科・ARI(急性呼吸器感染症)定点:5か所、ARI定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計14か所を設定しています。

検体採取は、小児科・ARI定点とARI定点で毎週実施しています。

眼科と基幹(病院)定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

2026年第9週～第12週に病原体定点から搬入された検体は、ARI(急性呼吸器感染症)定点129件、定点医療機関外1件でした。

4月8日現在、表に示した各種ウイルスの分離43株と遺伝子47件が同定されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(2026年第9週～第12週)

主な臨床症状等 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎
	インフルエンザウイルス B (ビクトリア系統)	33 1
インフルエンザウイルス B (系統未同定)	10 2	
ライノウイルス	- 10	
SARS-CoV-2	- 11	- 1
RS ウイルス	- 6	
ヒトメタニューモウイルス	- 6	- 1
ライノウイルスまたはエンテロウイルス	- 5	
パラインフルエンザウイルス 3型	- 2	
アデノウイルス	- 2	
合 計	43	-
	45	2

上段:ウイルス分離数 下段:遺伝子検出数

【 検査研究課 ウイルス担当 】

〈細菌検査〉

2026年第9週～第12週の「菌株同定」について保健所からの検査依頼は、腸管出血性大腸菌感染症3件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症3件、カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症1件、ノカルジア症1件でした。

「分離同定」の検査依頼は保健所からレジオネラ症1件でした。

病原体定点医療機関からの検査依頼は「小児科定点」から溶血性レンサ球菌咽頭炎3件、「ARI定点」から2件でした。

表 感染症発生動向調査における病原体調査(2026年第9週～第12週)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
保健所	腸管出血性大腸菌感染症	3	O128:H- VT2 (2) O157:H- VT2 (1)
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3	A群溶血性レンサ球菌 T4 (1) B群溶血性レンサ球菌 型別不能 (1) G群溶血性レンサ球菌 (1)
	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	1	<i>Klebsiella aerogenes</i> (1)
	ノカルジア症	1	<i>Nocardia</i> sp. (1)

分離同定	項目	検体数	材料	同定、血清型
保健所	レジオネラ症	1	喀痰	レジオネラ属菌 培養陰性 (1)

小児科サーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
小児科定点	咽頭ぬぐい液	溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	A群溶血性レンサ球菌 T型別不能 (3)

ARIサーベイランス	材料	診断名	検体数	同定、血清型等
ARI定点	咽頭ぬぐい液	ARI	2	A群溶血性レンサ球菌 T型別不能 陽性 肺炎マイコプラズマ遺伝子 陰性 百日咳菌遺伝子 陰性 百日咳菌培養 陰性 (2)

【 検査研究課 細菌担当 】